

## 平成 26 年度独立行政法人日本芸術文化振興会年度計画

平成 26 年 3 月 31 日制定

平成 27 年 2 月 26 日変更

### (序 文)

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三十三号）第三十一条の規定により、平成 25 年 3 月 29 日付け 24 受庁文第 1465 号で認可を受けた独立行政法人日本芸術文化振興会中期計画に基づき、平成 26 年度（平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで）の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

本年度の事業の実施に当たっては、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災からの復興状況を踏まえて、当振興会に課された使命の達成に努める。

なお、本年度は演芸場開場 35 周年及び文楽劇場開場 30 周年の記念の年に当たる。当振興会の役割について国民の理解を得て、我が国の伝統芸能の保存と振興に資するため、記念公演等の各種記念事業を実施する。

### I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

#### 1 文化芸術活動に対する援助

##### (1) 助成金の交付

ア 芸術文化振興基金（以下「基金」という。）の運用収入等を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動
  - (a) 現代舞台芸術の公演、伝統芸能の公開その他の活動
  - (b) 美術の展示、映像芸術の普及その他の活動
  - (c) 異なる芸術の分野の芸術家又は芸術に関する団体が共同して行う活動、特定の芸術の分野に分類することが困難な活動等
- ② 地域の文化の振興を目的として行う活動
  - (a) 文化会館、美術館その他の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
  - (b) 伝統的建造物群、遺跡、民俗芸能その他の文化財を保存し、又は活用する活動
- ③ 文化に関する団体が行う文化の振興又は普及を図るための活動
  - (a) アマチュア、青少年等の文化団体が行う公演、展示その他の活動
  - (b) 文化財である工芸技術又は文化財の保存技術の復元、伝承その他文化財を保存する活動

イ 文化芸術振興費補助金（以下「補助金」という。）を財源とする助成金の交付に関する計画

次に掲げる活動に対して助成金を交付する。

- ① 我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動
- ② 優れた日本映画の製作活動

ウ 助成金交付事務の効率化等

- ① 審査方法等に関する基準を策定し、ホームページ等で公表する。また、舞台芸術分野については、審査基準を事前に公表する。
- ② 助成対象活動について外部有識者、プログラムディレクター及びプログラムオフィサー等による公演等調査を行うとともに、補助金を財源とする助成金の舞台芸術分野については事後評価を実施するとともに、結果を審査等に活用する。
  - ・ 公演等調査：400 件以上
- ③ 助成対象活動の実施状況の調査のため、職員による会計調査を実施するとともに、プログラムディレクター及びプログラムオフィサーが中心となって、助成対象団体と助成対象活動等について意見交換を実施する。
  - ・ 会計調査：90 件以上
- ④ 助成対象活動の公演等調査及び助成対象団体との意見交換等も踏まえ、助成対象分野の現状等について調査分析を行う。
- ⑤ 地域の文化振興等の活動について、応募書類の受付窓口及び推薦に係る業務等について地方公共団体と連携・協力して効率的に実施する。
- ⑥ 事務手続きの合理化を図るため、助成金交付事務に係る助成業務システムについて、応募書類の電子データによる受付等の実施について引き続き検討する。

基金及び補助金の助成事業の交付申請書受理から交付決定までの期間について 35 日以下とする。

エ 基金の管理運用については、安全性に留意するとともに、安定した収益の確保によって継続的な助成が可能となるよう、資金内容及び経済情勢の把握に努め、振興会に設置する資金管理委員会において運用方針、金融商品等の検討を行い、効率的な方法により実施する。

オ 芸術文化振興基金賛助会制度及び社会貢献信託制度の周知を図り、芸術文化振興基金の受入拡充に努める。

また、東日本大震災に伴う被災地の復興支援を目的とした芸術文化復興支援基金による助成事業について、その周知を図りつつ、助成に必要な資金の確保に努めるとともに、助成金の交付方法等について検討する。

## (2) 助成に関する情報等の収集及び提供

ア 文化芸術活動に対する援助の中核的拠点として、広く文化芸術活動に関する情報を収集し、その情報をデータベース化するとともに、ホームページ等を通じて提供する。

- ・ ホームページ目標アクセス件数：129,500 件

イ 振興会が実施する文化芸術活動に関する助成事業を周知するため、ホームページでの情報提供を充実させるとともに、助成対象活動の事例集を作成・配布する。

ウ 助成対象活動の募集に当たっては、芸術関係誌等への広告掲載及びホームページへの情報掲載を行うとともに、地方公共団体及び全国の公立文化施設等へポスター等を配布する。

エ 芸術団体等を対象とした助成対象活動の募集説明会について、東京、大阪に加え、他地域でも開催する。

## 2 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

### (1) 伝統芸能の公開

ア 伝統芸能の保存と振興を図るため、中期計画の方針に従い、別表 1 のとおり主催公演を実施する。

イ 演目の拡充

- ① 歌舞伎について、平成 17 年度に作成した「復活上演候補演目一覧」の見直しを継続するとともに、「国立劇場文芸研究会」において、上演候補台本準備稿の作成作業を進める。  
また、歌舞伎の新作脚本募集について、選考及び表彰を行う。
  - ② 文楽について、新作の上演を行う。また、廃絶演目の復曲作業を進めるとともに、上演に向けた準備作業を行う。
  - ③ 大衆芸能の新作脚本募集について、「講談」の作品を募集し、選考及び表彰を行う。
  - ④ 能楽について、現行曲の演出を能の原点に立ち戻って見直し、その演出により上演を行う。また、他の能楽堂等で上演された優れた新作・復曲作品の上演を行う。
  - ⑤ 組踊等沖縄伝統芸能について、上演機会が少ない優れた演目の上演や、古典の様式を踏まえた新作組踊の再演を行う。
- (2) 現代舞台芸術の公演  
現代舞台芸術の振興と普及を図るため、中期計画の方針に従い、別表 2 のとおり主催公演を実施する。
- (3) 青少年等を対象とした公演  
ア 伝統芸能を次世代に伝え、新たな観客層の育成を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施する。実施に当たっては、各公演等の連携協力を強化するなど、その充実を図る。  
イ 青少年等が現代舞台芸術に触れる機会を確保し、新たな観客層の育成と現代舞台芸術の普及を図るため、主に青少年を対象とした公演を別表 3 のとおり実施するほか、社会人や親子を対象とした入門企画を別表 4 のとおり実施する。実施に当たっては、各公演の連携協力を強化するなど、その充実を図る。
- (4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演の実施に際しての留意事項等  
ア 外部専門家等の意見を聴取するとともに、観客へのアンケート調査を適宜実施し、公演事業に反映させる。  
イ 我が国における伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及の中核的拠点として、中期計画の方針に従い、次のとおり公演等を実施する。
  - ① 共催、受託などによる公演等を別表 5 のとおり実施する。
  - ② 各地の文化施設等における公演等を別表 6 のとおり実施する。
  - ③ 国際文化交流の進展に寄与する公演等を別表 7 のとおり実施する。
- (5) 快適な観劇環境の形成  
ア 観客にとって快適で安全な環境を提供するため、観客の要望等を踏まえ、売店・レストラン等におけるサービスの充実や観劇時のマナーの呼びかけを行うとともに、ロビー等観客用設備の適切な維持管理を行う。  
また、外国人の観客に対し、劇場内外の案内表示の整備等サービスの充実に努める。  
イ 入場券販売において、インターネットや電話など、観客の利用形態に応じた多様な購入方法を提供する。  
また、新たなチケット販売システムの運用を開始し、特にインターネットでの購入において、より利便性の高いサービスを提供する。  
ウ 公演内容等の理解を促進するため、公演内容に応じて、解説書等の作成並びに音声同時解説及び字幕表示を行う。また、鑑賞団体等に対し、公演内容の事前説明会や施設見学会を行う。  
エ ホームページや各劇場に設置するご意見箱等を通じて寄せられる意見・要望について

は、一元的に管理し、対応の迅速化と職員間の情報共有の強化を図る。

また、観客へのアンケート調査や劇場モニターの活用等により、観客等の要望、利用実態等を把握し、サービスの向上に活用する。

#### (6) 広報・営業活動の充実

##### ア 効果的な広報・営業活動の展開

- ① 公演内容に応じて、記者会見・取材等によるマスメディアを通じた広報や、インターネット広告等の多様な媒体を活用して、広報活動を効果的に実施する。

国立演芸場開場 35 周年及び国立文楽劇場開場 30 周年の記念公演については、特別ポスター・チラシ等により広報を強化する。

- ② 振興会各種事業に関する広報の充実に努め、ホームページ等を活用して随時最新の情報を提供する。

ホームページについて、各種情報の早期掲載及び内容の充実に努めるとともに、アクセス動向等を分析して利用状況を把握する。引き続き英語版ホームページの内容を見直し、外国人に対する情報発信を強化する。メールマガジンにより、公演等の情報を随時配信する。

また、国立劇場開場 50 周年に向けて、ホームページリニューアル等の検討を開始する。

- ・ 日本芸術文化振興会ホームページ目標アクセス件数：2,100,000 件
- ・ 国立劇場おきなわホームページ目標アクセス件数：236,000 件
- ・ 新国立劇場ホームページ目標アクセス件数：3,600,000 件

- ③ 振興会各種事業に関する広報誌を次のとおり発行する。

- ・ 日本芸術文化振興会ニュース（毎月発行）
- ・ 国立劇場おきなわ情報誌「華風」（毎月発行）
- ・ 新国立劇場情報誌「ジ・アトレ」（毎月発行）

- ④ 観劇意欲を促進するため、観客の需要を踏まえ、シーズンシートやセット券を企画・販売する。

- ⑤ 団体観劇を促進するため、公演内容に応じた営業活動を展開するとともに、旅行代理店・ホテル等との連携を強化する。また、法人を対象とする会員制度を創設し、会員の募集を行うとともに、サービスの提供を開始する。

- ⑥ 若年層の観客増を図るため、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」を創設し、会員の募集を行うとともに、サービスの提供を開始する。

- ⑦ 全職員が集客に対する意識を高め、知人や関係するコミュニティー等に対して積極的に団体観劇を勧誘する「おすすめキャンペーン」を引き続き実施する。

イ 個人を対象とする会員組織の会員に対し、観劇意欲の促進のため、会報による情報提供を定期的に行うとともに、入場券の会員先行販売や会員向けイベント等の各種サービスを提供する。また、アンケート調査の結果や劇場モニターの意見内容について検討し、会員向けサービスの充実に活用する。

新規会員について、会員向けサービスの周知により、引き続き増加に努める。

- ① あぜくら会（本館・演芸場・能楽堂）

- ・ 会報「あぜくら」（毎月発行）
- ・ 会員向けイベント：年 9 回程度
- ・ 目標会員数：18,000 人

- ② 国立文楽劇場友の会

- ・ 「国立文楽劇場友の会会報」（年 6 回発行）

- ・ 会員向けイベント：年6回程度
  - ・ 目標会員数：7,700人
  - ③ 国立劇場おきなわ友の会
    - ・ 「国立劇場おきなわ友の会会報」（年4回発行）
    - ・ 会員向けイベント：年3回程度
    - ・ 目標会員数：2,200人
  - ④ クラブ・ジ・アトレ（新国立劇場）
    - ・ 会報「ジ・アトレ」（毎月発行）
    - ・ 会員向けイベント：年11回程度
    - ・ 目標会員数：9,500人
- (7) 劇場施設の使用効率の向上等

ア 中期計画の方針に従い、劇場施設の使用効率の向上を図るとともに、伝統芸能の保存振興又は現代舞台芸術の振興普及等を目的とする事業に対し、劇場施設を次のとおり貸与する。

区分	貸与日数	使用効率
本館大劇場	79日	80%
本館小劇場	146日	76%
演芸場	100日	87%
能楽堂本舞台	180日	70%
文楽劇場	105日	71%
文楽劇場小ホール	120日	66%
国立劇場おきなわ大劇場	74日	42%
国立劇場おきなわ小劇場	99日	55%
新国立劇場オペラ劇場	50日	48%
新国立劇場中劇場	179日	73%
新国立劇場小劇場	106日	73%
(合計)	1,238日	68%

※ 使用効率は、使用可能日数のうち鑑賞機会の提供（主催公演、主催公演関連企画、貸し劇場公演）を行った日数の割合。

- イ 各施設の利用促進を図るため、次の取組を行う。
- ① 各施設の設備等の概要、利用方法及び空き日等の情報をホームページへ掲載する。
  - ② パンフレットやダイレクトメールにより広報を行う。
  - ③ 利用希望者に対し適宜説明・見学等の機会を設け、劇場利用者の増加に取り組む。
  - ④ 利用者に対しアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえ、サービスの充実を図る。
  - ⑤ 他の劇場施設等の利用方法、利用料金等の調査を引き続き行うとともに、調査結果を検討し活用する。

### 3 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

#### (1) 伝統芸能の伝承者の養成

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり養成研修を実施する。

- ① 歌舞伎俳優・音楽  
(歌舞伎俳優)

(a) 歌舞伎俳優第 21 期生（研修期間 2 年、7 名）の 2 年目の養成を行う。

(b) 歌舞伎俳優第 22 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

（歌舞伎音楽）

(c) 竹本第 21 期生（研修期間 2 年、2 名）の 2 年目の養成を行う。

(d) 竹本第 22 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

(e) 鳴物第 15 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

(f) 長唄第 6 期生（研修期間 3 年、1 名）の 2 年目の養成を行う。

② 大衆芸能

(a) 寄席囃子第 13 期生（研修期間 2 年、6 名）の 1 年目の養成を行う。

③ 能楽（ワキ・囃子・狂言：研修期間 6 年）

(a) 第 9 期生（4 名）の 1 年目の養成を行う。

④ 文楽（大夫、三味線、人形：研修期間 2 年）

(a) 第 26 期生（3 名）の 2 年目の養成を行い、修了を予定。

(b) 第 27 期生の募集について検討を行い、実施する予定。

⑤ 組踊（立方・地方：研修期間 3 年）

(a) 第 4 期生（10 名）の 1 年目の養成を行う。

イ 研修修了生を中心に伝承者の技芸の向上を図るため、次のとおり既成者研修を実施する。

① 既成者研修発表会を次のとおり実施する。

(a) 歌舞伎俳優既成者研修発表会（2 公演実施）

- ・ 歌舞伎会・稚魚の会合同公演（本館小劇場）8 月 15 日～18 日、8 回
- ・ 上方歌舞伎会（文楽劇場）8 月 23 日～24 日、4 回

(b) 歌舞伎音楽既成者研修発表会（1 公演実施）

- ・ 音の会（本館小劇場）8 月 9 日～10 日、2 回

(c) 能楽既成者研修発表会（3 公演実施）

- ・ 若手能（京都：観世会館）6 月 28 日、1 回
- ・ 若手能（大阪：大槻能楽堂）1 月 31 日、1 回
- ・ 若手能（東京：能楽堂）2 月 28 日、1 回

(d) 文楽既成者研修発表会（4 公演実施）

- ・ 文楽若手会（文楽劇場）6 月 21 日～22 日、2 回
- ・ 文楽若手会（本館小劇場）6 月 28 日～29 日、2 回
- ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）8 月 29 日、1 回
- ・ 若手素浄瑠璃の会（文楽劇場小ホール）3 月 6 日、1 回

(e) 組踊既成者研修発表会（1 公演実施）

- ・ 若手伝承者発表会（国立劇場おきなわ大劇場）1 月 31 日、1 回

② 能楽について、研究課程を開講し、研修機会の拡大と伝承者間の交流を促進する。

ウ 実施に当たっては、各分野の充足状況等を把握するとともに、研修修了後の就業機会確保のための関係団体等との協議、外部専門家等からの伝統芸能の伝承状況等の意見等を踏まえ、養成すべき分野、人数、研修期間等を定めた上で計画的に実施する。

また、研修修了生の動向把握等により成果の検証を行い、伝承者の充実のため、対象とする分野、人数等について不断の見直しを行う。

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

ア 中期計画の方針に従い、次のとおり研修を実施する。

① オペラ研修（研修期間 3 年）

- (a) 第15期生（5名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
  - (b) 第16期生（5名）の2年目の研修を行う。
  - (c) 第17期生（5名）の1年目の研修を行う。
  - (d) 第18期生（5名程度）の募集を行う。
  - (e) 研修発表会等（3公演実施）
    - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）8月2日～3日、2回
    - ・ 研修所公演（新国立劇場中劇場）2月20日～22日、3回
    - ・ 歌唱コンサート（新国立劇場中劇場を予定）冬季、1回
  - (f) 修了後の国際的なキャリア形成を目標とし、9月に海外研修を行う。
- ② バレエ研修（研修期間2年）
- (a) 第10期生（6名）の2年目の研修を行い、修了を予定。
  - (b) 第11期生（5名）の1年目の研修を行う。
  - (c) 第12期生（6名程度）の募集を行う。
  - (d) バレエ予科生について、次のとおり研修及び募集を行う。
    - ・ 第5期生（3名）の2年目の研修を行う。
    - ・ 第6期生（3名）の1年目の研修を行う。
    - ・ 第7期生（若干名）の募集を行う。
  - (e) 研修発表会等（3公演実施）
    - ・ 発表公演（新国立劇場中劇場）10月4日～5日、2回
    - ・ 修了公演（新国立劇場中劇場）2月28日～3月1日、2回
    - ・ 「バレエ・アステラス★2014」（新国立劇場オペラ劇場）7月20日、1回
- ③ 演劇研修（研修期間3年）

- (a) 第8期生（9名）の3年目の研修を行い、修了を予定。
- (b) 第9期生（9名）の2年目の研修を行う。
- (c) 第10期生（12名）の1年目の研修を行う。
- (d) 第11期生（12名程度）の募集を行う。
- (e) 研修発表会等（3公演実施）
  - ・ 試演会（新国立劇場小劇場）9月6日～10日、5回（予定）
  - ・ 修了公演（新国立劇場小劇場）3月5日～8日、5回（予定）
  - ・ 朗読劇「少年口伝隊一九四五」（会場未定）日程未定、回数未定

イ 実施に当たっては、民間団体の役割を踏まえつつ、グローバルな視点に立った体系的なカリキュラム等により、安定的、継続的に実演家の育成を行うよう留意する。

また、外部専門家等の意見を聴取し、成果の検証を行い、成果が不十分なものについては廃止を含め、長期的視点を踏まえて対象とする分野、人数などについて不断の見直しを行う。

(3) 伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修の実施に当たっての留意事項

ア 養成研修事業についての国民の関心を喚起するため、研修修了者の活動状況等をホームページ等で紹介するなど、事業の周知に努める。

また、研修生募集について、ホームページでの告知、研修紹介DVDの活用、研修見学会の実施等により周知し、応募者の増加を図る。

イ 研修生等が実演経験を積む機会の充実を図るとともに、伝統芸能及び現代舞台芸術の振興・普及のため、研修生及び研修修了生によるワークショップ等を全国の文化施設、学校等と協力して実施する。

- また、外部公演への出演依頼に積極的に応じて、文化普及活動への参画に努める。
- ウ 伝統芸能・現代舞台芸術双方の研修生を対象とした特別合同講義を実施して、両分野の相互交流を図る。
- エ 国の文化振興施策との連携に留意しつつ、国立劇場、新国立劇場等の人材や施設を活用し、公演制作者や舞台技術者等の実地研修等の受入れ、協力を努める。

#### 4 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

##### (1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する調査研究を次のとおり実施する。

- ① 歌舞伎、文楽及び組踊等沖縄伝統芸能公演の実施に当たり、過去の公演記録、演出等を調査した上演資料集を作成し、上演内容の理解促進に活用する。
- ② 日本各地の歌舞伎・文楽を主とした演劇興行に関する記録及び組踊等沖縄伝統芸能の上演に関する記録の調査研究を次のとおり行う。
  - (a) 「近代歌舞伎年表」名古屋篇第九巻の刊行及び第十巻の刊行準備
  - (b) 「義太夫年表 昭和篇」第三巻の刊行準備
  - (c) 「沖縄芸能史年表」第十一集の作成
- ③ 伝統芸能に関する古文献等について調査研究を行い、次のとおり復刻・刊行等を行う。
  - (a) 歌舞伎資料選書・12「芝居見たまま 明治篇」第三巻の刊行
  - (b) 未翻刻戯曲集第二十一巻の刊行
  - (c) 正本写合巻集（2冊）の刊行
  - (d) 演芸資料選書・11「本朝話者系図」（仮題）の刊行
  - (e) 「国立能楽堂調査研究」（9）の刊行

イ 中期計画の方針に従い、伝統芸能に関する資料の収集及び活用を次のとおり実施する。

- ① 伝統芸能関係図書、歌舞伎錦絵等博物資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供する。

各館においては、伝統芸能全般に関する図書・資料のほか、主として各館で公開する分野に関する図書・資料を収集する。

図書については、開架図書を充実させるとともに、ホームページで蔵書検索サービスを提供し、一般の利用の促進に努める。
- ② 収集した資料等を活用し、次のとおり刊行を行う。また、博物館施設等に対し、収集した資料を貸与する。
  - (a) 特別展示図録の刊行（能楽堂）
  - (b) 英文演目解説「The Guide to Noh of National Noh Theatre」刊行（能楽堂）
- ③ 収集した資料のデータベース化やデジタルコンテンツの充実を図り、インターネットにより公開する。
  - (a) 図書、資料及び公演記録等について、引き続き次の情報のデータベース化を行う。
    - ・ 図書（本館筋書）
    - ・ 錦絵
    - ・ プロマイド
    - ・ 公演記録情報（上演情報、公演記録写真、扮装図鑑）
  - (b) デジタルコンテンツを次のとおり作成する。
    - ・ 文化デジタルライブラリー



舞台芸術教材「文楽編」

舞台芸術教材「歌舞伎事典」(改修)

(c) 文化デジタルライブラリーホームページ目標アクセス件数：430,000件

ウ 収集した資料等を別表8のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

能楽堂収蔵資料を活用し、オーストラリアのシドニーにおいて、文化庁及びオーストラリアニューサウスウェルズ州立美術館と共催で「国立能楽堂収蔵資料展 “Noh and Kyogen in Japan”」(仮称)を開催する。

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

ア 中期計画の方針に従い、新国立劇場で上演する現代舞台芸術の主催公演等に関し、上演作品等についての資料調査を実施する。

① 海外戯曲の翻訳に関する調査を行い、新国立劇場での上演に活用するとともに、調査結果を活用して講演会やリーディング公演を実施する。

② 主催公演の実施に当たり、上演内容の理解促進のため、民間出版社と連携して新訳戯曲を刊行する。

③ 海外の主要劇場等の情報を引き続き収集して、公演の充実等に活用するとともに、情報センターにおいて一般に向けて公開する。

また、各国主要劇場の概要を公演プログラムに記載するとともに、ホームページで公開する。

④ 主催公演の公演記録映像、写真、舞台演出・美術資料などについて、引き続き、整理・保存を行う。

イ 現代舞台芸術に関する図書、資料等の収集及び分類整理を行い、閲覧に供するとともに、他の劇場施設等への貸与を行う。

① 情報センターについて、開架図書を充実させるとともに、ホームページで所蔵資料検索サービスを提供し、一般の利用の促進に努める。

② 図書資料管理システムについて、引き続き図書等の情報のデータベース化を行う。

③ 所蔵品管理システムについて、引き続き過去の寄贈資料の情報のデータベース化を行う。

ウ 収集した資料等を、別表8のとおり展示公開する。実施に当たっては、来場者の利便性の向上と広報活動の強化を図る。

(3) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公演記録の作成・活用、普及活動の実施

ア 主催公演を中心に演技・演出等の記録を録音・録画・写真等により適切に作成・保存し、閲覧・視聴に供する。

イ 公演記録映像については、鑑賞会等を開催するとともに、講座・レクチャー等で活用する。また、必要な著作権処理を行った上で、外部制作会社等と連携して、DVDを作成する等の有効活用を図る。

ウ 公開講座等、普及活動の実施

① 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する公開講座等を別表9のとおり実施する。実施に当たっては、広報活動を十分に行うとともに、参加者に適宜アンケート調査を実施し、回答者の80%以上から有意義であったと回答されるよう内容等の充実に努める。

② 公演の実施にあわせた関連講座、展示等を適宜実施し、内容に応じてホームページ等で公開する。

③ 教職員の伝統芸能への理解を深め、教育を受ける児童・生徒に対して伝統芸能の普及促進を図る観点から、教員免許更新制における免許状更新講習を、文部科学大臣の

認定を受けて実施する。

- ④ 組踊等沖縄伝統芸能への理解を促進し、より一層の普及を図るため、学校等に対して、解説DVDの貸出し及びパンフレット等の提供を行う。
- ⑤ オンラインコンテンツ「現代舞台芸術入門オンラインツアー」を、引き続き新国立劇場ホームページで公開し、現代舞台芸術の魅力をより多面的に、幅広い層に向けて発信する。

## II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

### 1 業務運営の効率化を進めるため、次の措置を講ずる。

#### (1) 効率化に関する取組

##### ア 情報システムの活用

- ① 財務会計システム等、業務システムの安定稼動を引き続き図ることにより、各業務の効率的な運用を行う。  
チケット販売関係システムを一元化した、新たなチケット販売システムの運用を開始する。
- ② システムの脆弱性への対応を着実に進めるとともに、不正アクセスへの監視及び対応を行い、情報セキュリティを強化する。
- ③ 増加するデータ情報を適正に管理・運用するため、ファイルサーバーに保管されているデータの調査・分析を進める。

##### イ 事務手続きの簡素化

館内LANの活用、各種マニュアルの整備等により事務手続きの効率化を図るとともに、内部統制の強化を図りつつ決裁事務の簡素化を進める。

##### ウ 契約の適正化

- ① 引き続き「随意契約等見直し計画」に基づき契約の適正化を図り、原則として一般競争入札によることとする。また、その取組状況をホームページで公表する。
- ② 契約監視委員会を引き続き設置して、定期的に契約の点検を行い、その結果を踏まえた見直しを実施する。
- ③ 入札事務の効率化と競争参加者の利便性向上のため、電子入札を一部の案件で実施する。

##### エ 省エネルギー、リサイクルの推進

- ① 特定地球温暖化対策事業所として、地球温暖化対策中長期計画書等を作成し二酸化炭素(CO2)の削減を推進する。
- ② 夏季軽装等の推進による、事務所部分を中心とした光熱水量の節減を図る。
- ③ 廃棄物の減量化を図るため、両面コピー及び分別収集を徹底する。
- ④ 情報システムの利用促進により、ペーパーレス化を進める。
- ⑤ グリーン購入法に基づく環境配慮物品等の調達を行い省エネルギー、リサイクルを促進する。

#### (2) 給与水準の適正化

役職員の給与について、国家公務員の給与見直しの動向を見つつ、必要な措置を講ずる。給与水準については、適正化に関する検証結果や取組状況について公表する。

#### (3) 組織機構の在り方の検討

業務運営の効率化等の進捗状況を踏まえ、人員配置など組織機構の在り方について検討し、必要な措置を講ずる。

#### (4) 保有資産の有効利用

施設の有効利用のため、引き続き適切な管理・運用に努めるとともに、各劇場施設の使用効率の向上及び利用者の増加に努める。

また、金融資産については、経済状況を踏まえつつ、適切な管理・運用に努める。

(5) 内部統制の充実・強化

ア 平成 25 年度の事業の実施結果について、担当各部が自己点検評価を行うとともに、各分野の外部専門家からの意見聴取を行う。

イ 上記の自己点検評価をもとに、外部の有識者、各分野の専門家等で構成する評価委員会において、業務の実績に関する評価を行う。評価結果については、公表するとともに、組織の改善、事業の見直し、事務の改善等に反映させる。

ウ 理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するとともに、監事監査及び内部監査を実施して内部統制の充実・強化を図る。

エ 国民が最新の情報を円滑に得られるよう、ホームページにおける情報アクセスを容易にし、情報開示を推進する。情報開示に当たっては、国民の理解が得られるよう、分かりやすく説明する意識を徹底する。

また、保有する情報については、法令等に基づき適切に情報の開示を行うとともに、情報セキュリティ対策についての意識の向上を図るため、各職員の自己点検の実施に加え、専門家による情報セキュリティ研修を実施する。

III 予算

- 1 予算 別紙 1 のとおり
- 2 収支計画 別紙 2 のとおり
- 3 資金計画 別紙 3 のとおり

IV 短期借入金の限度額

運営費交付金の受入の遅延が生じた場合、短期借入金の限度額（10 億円）の範囲内で借入れを行う。

V その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 職員の計画的、適正な配置を図るとともに、外部機関との人事交流を適切に進め、多様な人材を確保・育成する。

(2) 事務能率の維持、増進を図るため、各種研修を行い、各職員の能力開発、専門性の確保及び意識改革を行うとともに、適切な労務管理を実施する。

ア 接遇、公演業務等の内部研修を実施する。

イ 会計、人事等の外部研修を活用する。

ウ 職員の心身の健康の保持増進を図る。

2 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備の老朽化への対応、劇場利用者の安全確保及び利便性の向上等のため、長期的な視野に立った整備計画を策定し、別紙 4 のとおり施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

国立劇場本館・演芸場の改修について、実施に向けての基本計画を策定し、今後の基本設計及び実施設計の検討の基礎とする。

基本計画は、評議員会等における外部有識者の意見を踏まえ、国立劇場等大規模改修推進委員会が中心となり策定を行う。

- (2) 快適で安全な観劇環境を提供するため、劇場利用者及び外部専門家の意見等を踏まえ、整備内容の検討を行い、可能なものは速やかに実施する。その際、国立劇場本館及び演芸場については、今後の改修計画との関連に留意する。

### 3 その他振興会の業務の運営に関し必要な事項

国立劇場おきなわの管理運営については、沖縄芸能・文化の独自性とその伝統を活かし、地方自治体等地元の協力を得るため、公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団に委託して行う。

また、新国立劇場の管理運営についても、芸術家、芸術団体等の創意、工夫を取り入れるとともに民間等の協力を得るため、公益財団法人新国立劇場運営財団に委託して行う。

なお、委託に当たっては、自己収入の確保等の方策により収支構造の改善等に計画的に取り組むとともに、契約内容の検証を行い、更に効率化を図る。

[別表 1] 伝統芸能の公開に関する計画

下記公演のうち、文楽劇場の全公演及び本館小劇場の5月文楽公演については、「国立文楽劇場開場30周年記念公演」として実施する。

1 歌舞伎（目標入場者数：225,000人）／25年度計画目標 223,290人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
10月歌舞伎公演	本館大劇場	10月4日～27日	24回	24日	21,300人
11月歌舞伎公演	〃	11月3日～26日	24回	24日	19,800人
12月歌舞伎公演	〃	12月3日～26日	24回	24日	23,400人
1月歌舞伎公演	〃	1月3日～27日	25回	25日	28,000人
3月歌舞伎公演	〃	3月3日～27日	25回	25日	18,400人
本公演（5公演）小計			122回	122日	110,900人
6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「らいさんばあさん」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	53,100人
7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、 「傾城反魂香」	〃	7月3日～24日	44回	22日	61,000人
鑑賞教室（2公演）小計			90回	45日	114,100人
歌舞伎（7公演）合計			212回	167日	225,000人

2 文楽（目標入場者数：178,700人）／25年度計画目標 169,850人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
5月文楽公演 「増補忠臣蔵」「恋女房染分手綱」「卅三間堂棟由来」／「女殺油地獄」「鳴響安宅新関」	本館小劇場	5月10日～26日	34回	17日	16,900人
9月文楽公演	〃	9月6日～22日	51回	17日	22,700人
12月文楽公演	〃	12月4日～16日	13回	13日	6,700人
2月文楽公演	〃	2月14日～3月2日	51回	17日	22,700人
12月文楽鑑賞教室	〃	12月4日～16日	24回	13日	13,100人
本館（5公演）小計			173回	77日	82,100人
4月文楽公演 通し狂言「菅原伝授手習鑑」	文楽劇場	4月5日～27日	44回	22日	18,400人
夏休み文楽特別公演 「かみなり太鼓」解説「ぶんらくってなあに」「西遊記」／「平家女護島」「鍵の権三重帷子」／「女殺油地獄」	〃	7月19日～8月4日	51回	17日	20,300人
11月文楽公演	〃	11月1日～24日	46回	23日	18,900人
初春文楽公演	〃	1月3日～26日	46回	23日	21,500人
6月文楽鑑賞教室「団子売」、解説「文楽へようこそ」、 「卅三間堂棟由来」	〃	6月6日～19日	28回	14日	17,500人
文楽劇場（5公演）小計			215回	99日	96,600人
文楽（10公演）合計			388回	176日	178,700人

3 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能等（目標入場者数：18,580人）／25年度計画目標 18,500人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
5月舞踊公演「動物の舞踊特集（仮）」	本館大劇場	5月24日	2回	1日	2,020人
8月舞踊公演「花形・名作舞踊鑑賞会」	本館小劇場	8月24日	2回	1日	740人
11月舞踊公演「舞の会－京阪の座敷舞－」	〃	11月22日	2回	1日	1,000人
3月舞踊公演「素踊りの会」	〃	3月14日～15日	2回	2日	800人
6月邦楽公演「日本音楽の光彩－現代に息づく響き－」	〃	6月21日	2回	1日	750人
10月邦楽公演「『八犬伝』を聴く」	〃	10月11日	1回	1日	460人
10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	10月25日	1回	1日	570人
1月邦楽公演「邦楽鑑賞会－長唄の会－ －三曲の会－」	〃	1月17日～18日	2回	2日	1,000人
7月雅楽公演「雅楽－新たな魅力を探る－（仮）」	〃	7月26日	1回	1日	540人
2月雅楽公演「管絃－双調と黄鐘調－」	〃	2月7日	1回	1日	540人
9月声明公演「浄土宗の声明」	本館大劇場	9月13日	1回	1日	1,330人
11月民俗芸能公演「新野の雪祭り」	本館小劇場	11月8日	2回	1日	740人
1月民俗芸能公演「土佐の神楽」	〃	1月24日	2回	1日	880人
4月琉球芸能公演「国立劇場おきなわ開場10周年 記念 組踊大川敵討」	〃	4月19日～20日	2回	2日	880人
4月舞踊・邦楽公演「明日をになう新進の舞踊・邦 楽鑑賞会」、特別公演「舞踊・邦楽鑑賞会」	〃	4月26日	2回	1日	860人
6月 第1回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」／「声 明を楽しむ」	本館小劇場	6月7日	2回	1日	950人
6月 第2回伝統芸能の魅力「日本舞踊を楽しむ」／ 「邦楽を楽しむ」	〃	6月14日	2回	1日	820人
9月特別企画公演「東日本大震災復興支援 東北の 芸能V」	本館大劇場	9月27日	1回	1日	1,150人
本館（18公演）小計			30回	23日	16,030人
10月舞踊公演	文楽劇場	10月18日	2回	1日	850人
7月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」	〃	7月5日	1回	1日	520人
5月舞踊・邦楽公演「新進と花形による舞踊・邦楽 鑑賞会」	〃	5月10日	1回	1日	450人
9月特別企画公演「真言宗智山派 総本山智積院の 声明－常楽会」	〃	9月13日	1回	1日	730人
文楽劇場（4公演）小計			5回	4日	2,550人
舞踊・邦楽等（22公演）合計			35回	27日	18,580人

4 大衆芸能（目標入場者数：52,760人）／25年度計画目標 52,370人

下記公演のうち、演芸場の4月から6月の公演については、「国立演芸場開場35周年記念公演」として実施する。

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
定席公演（上席・中席）（22公演）	演芸場	毎月実施 （5月・1月は中席のみ）	241回	219日	36,000人
若手新人公演（花形演芸会）（12公演）	〃	毎月実施	12回	12日	3,300人
新春名人会	〃	1月2日～7日	8回	6日	2,300人
国立名人会（11公演）	〃	毎月実施 （1月を除く）	11回	11日	3,080人
特別企画公演（10公演）	〃	毎月実施 （5月・1月を除く）	14回	14日	3,850人
演芸場（56公演）小計			286回	262日	48,530人
浪曲名人会	文楽劇場	2月28日	1回	1日	700人
浪曲録声会	文楽劇場小ホール	5月17日	2回	1日	290人
上方演芸特選会（6公演）	〃	奇数月に実施	24回	24日	3,240人
文楽劇場（8公演）小計			27回	26日	4,230人
大衆芸能（64公演）合計			313回	288日	52,760人

5 能楽（目標入場者数：35,550人）／25年度計画目標 36,143人

区分	公演名	期間	回数	日数	目標入場者数
定例公演	狂言「泣尼」、能「屋島弓流・那須」	4月9日	1回	1日	580人
	狂言「酢薑」、能「海士懐中之舞」	4月18日	1回	1日	580人
	狂言「茶壺」、能「俊寛」	5月16日	1回	1日	580人
	狂言「無布施経」、能「浮舟」	5月21日	1回	1日	580人
	狂言「縄綱」、能「班女」	6月4日	1回	1日	580人
	狂言「右近左近」、能「采女美奈保之伝」	6月20日	1回	1日	580人
	狂言「因幡堂」、能「芭蕉菓草喻品」	7月16日	1回	1日	580人
	狂言「磁石」、能「龍田」	7月25日	1回	1日	580人
	狂言「川上」、能「小督替装束」	9月3日	1回	1日	580人
	狂言「薩摩守」、能「是我意白頭」	9月19日	1回	1日	580人
	狂言「鎧」、能「三輪」	10月1日	1回	1日	580人
	狂言「吹取」、能「松虫」	10月17日	1回	1日	580人
	狂言「蟹山伏」、能「二人静」	12月10日	1回	1日	580人
	狂言「塗附」、能「葛城」	12月19日	1回	1日	580人
	素謡「翁」、能「玉井」、間狂言「貝尽」	1月7日	1回	1日	580人
	狂言「成上り」、能「山姥白頭」	1月16日	1回	1日	580人
	狂言「延命袋」、能「雲林院」	3月4日	1回	1日	580人
	狂言「苞山伏」、能「頼政」	3月20日	1回	1日	580人
	解説、狂言「隠狸」、能「高砂」	4月12日	1回	1日	610人

普及公演	解説、狂言「鐘の音」、能「蟬丸」	5月10日	1回	1日	610人
	解説、狂言「止動方角」、能「皇帝」	6月14日	1回	1日	610人
	解説、狂言「水掛髻」、能「佐保山」	7月12日	1回	1日	610人
	解説、狂言「文荷」、能「阿漕」	9月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「鳴子遣子」、能「歌占」	10月11日	1回	1日	610人
	解説、狂言「御茶の水」、能「錦木」	12月13日	1回	1日	610人
	解説、狂言「禰宜山伏」、能「橋弁慶」	1月24日	1回	1日	610人
	解説、狂言「鶯」、能「未定」	3月7日	1回	1日	610人
企画公演	【特別公演】松尾芭蕉の見た風景 能「遊行柳」、狂言「歌争」、能「鶉飼」	4月26日	1回	1日	590人
	【企画公演】演出の様々な形 おはなし、仕舞、狂言「船渡髻」、能「邯鄲夢中醉舞」	5月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】演出の様々な形 おはなし、仕舞、狂言「舟渡髻」、能「邯鄲傘之出」	5月31日	1回	1日	590人
	【企画公演】復曲・再演の会 解説、仕舞「実盛クセ・キリ」、復曲能「敷地物狂」	7月5日	1回	1日	590人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会 おはなし、能「紅葉狩紅葉ノ舞・群鬼ノ伝」	8月2日	1回	1日	590人
	【企画公演】働く貴方に贈るⅠ 対談、狂言「盆山」、能「雷電」	8月21日	1回	1日	590人
	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会 おはなし、狂言「二人袴」、狂言「大和西瓜」	8月23日	1回	1日	590人
	【企画公演】狂言と落語・講談 講談「扇の的」、落語「宗論」、狂言「宗論」	8月29日	1回	1日	590人
	【企画公演】能を再発見するⅤ 仕舞「百万クセ」、対談、能「観阿弥時代の百万」	9月23日	1回	1日	590人
	【企画公演】古典の日記念 雪景色 箏曲「鉢木」、能「雪雪踏之拍子」	10月31日	1回	1日	590人
	【企画公演】鬼の世界 おはなし、狂言「節分」、能「鉄輪」	11月6日	1回	1日	590人
	【企画公演】鬼の世界 おはなし、狂言「清水」、能「葵上古式」	11月7日	1回	1日	590人
	【企画公演】鬼の世界 おはなし、狂言「伯母ケ酒」、能「安達原白頭・急進之出」	11月8日	1回	1日	590人
	【企画公演】鬼の世界 蠟燭の灯りによるⅠ 狂言「杭か人か」、狂言「鬼の継子」、狂言「鬨罪人」	11月27日	1回	1日	590人
	【企画公演】鬼の世界 蠟燭の灯りによるⅡ 狂言「八尾」、能「大江山」	11月28日	1回	1日	590人
	【特別公演】仕舞、狂言「柑子」、能「大原御幸」	12月6日	1回	1日	590人
	【特別公演】初夢とともに 能「富士山」、狂言「茄子」、能「野守黒頭」	1月10日	1回	1日	590人
	【狂言の会】 狂言「鴈磔」、狂言「千鳥」、狂言「賽の目」	1月29日	1回	1日	590人



	【企画公演】蠟燭の灯りによるⅢ おはなし、謡講、能「弱法師」	2月4日	1回	1日	590人
	【企画公演】能・狂言に見る危機と機転 おはなし、狂言「武悪」、能「咸陽宮」	2月14日	1回	1日	590人
	【企画公演】能を再発見するⅥ 対談、能「古作 花筐」	2月19日	1回	1日	590人
	【企画公演】働く貴方に贈るⅡ 狂言「文山立」、実演、能「巴替装束」	2月27日	1回	1日	590人
	【企画公演】復興と文化Ⅲ 講演、狂言「鬼瓦」、能「桜川」	3月15日	1回	1日	590人
鑑賞 教室	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「仏師」、能「殺生石」	6月23日～27日	10回	5日	6,050人
能楽（計51公演）合計：定例公演18、普及公演9、企画公演23、鑑賞教室1			60回	55日	35,550人

6 組踊等沖縄伝統芸能（目標入場者数：16,461人）／25年度計画目標15,745人

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
定期 公演	琉球舞踊「琉舞鑑賞会－うりずんの舞－」	小劇場	4月12日	1回	1日	149人
	組踊「執心鐘入」	大劇場	4月26日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「八重山の踊り（ぶどうい）」	〃	5月31日	1回	1日	374人
	三線音楽「三線音楽・三味線音楽（10周年記念特別公演）」	〃	6月14日	1回	1日	374人
	民俗芸能「沖縄本島民俗芸能祭（八重瀬町）」	〃	7月12日	1回	1日	453人
	組踊「月の豊多」	〃	7月26日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「男性舞踊家の会」	〃	8月16日	1回	1日	374人
	組踊「伏山敵討」	〃	8月24日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉舞鑑賞会－豊穰の舞－」	小劇場	9月6日	1回	1日	149人
	琉球舞踊「琉球舞踊特選会」（10周年記念特別公演）」	大劇場	9月20日	1回	1日	436人
	組踊「未生の縁」	〃	9月27日	1回	1日	339人
	沖縄芝居 史劇「首里城明け渡し」（10周年記念特別公演）」	〃	10月4日～5日	2回	2日	875人
	民俗芸能「石垣島四ヶ字のプーリィ（豊年祭）」（10周年記念特別公演）」	〃	12月14日	2回	1日	876人
	琉球舞踊「新春琉舞名人選」	〃	1月10日～11日	2回	2日	810人
	組踊「辺土の大主」	〃	1月24日	1回	1日	339人
	琉球舞踊「琉舞鑑賞会－初春の舞－」	小劇場	2月7日	1回	1日	149人
	組踊「万歳敵討」	大劇場	2月28日	1回	1日	339人
	沖縄芝居 歌劇「奥山の牡丹」	〃	3月14日～15日	2回	2日	687人
	組踊「忠臣身替」	〃	3月21日	1回	1日	339人
	企画 公演	新作組踊「聞得大君誕生」	〃	5月22日～25日	4回	4日
「ゆらていく遊ば」		〃	10月25日	1回	1日	311人
「国立劇場寄席」		〃	11月8日	1回	1日	498人

	アジア・太平洋地域の芸能「韓国・珍島シッキムクッ」(10周年記念特別公演)	〃	11月15日	1回	1日	371人
	「創作舞踊」	〃	12月20日	1回	1日	310人
	「神楽」(岩手県大償)	〃	2月15日	1回	1日	371人
研究公演	村々に伝わる組踊(恩納村)	〃	5月10日	1回	1日	433人
普及公演	社会人のための組踊鑑賞教室「雪払い」	〃	6月28日	1回	1日	424人
	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	8月3日	1回	1日	424人
	生徒のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	〃	10月16日～17日	4回	2日	1,609人
	生徒のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	11月27日～28日	4回	2日	1,618人
組踊等沖縄伝統芸能(30公演)合計:定期公演19、企画公演6、研究公演1、普及公演4				43回	38日	16,461人

[別表2] 現代舞台芸術の公演に関する計画

1 オペラ (目標入場者数 : 76,332 人) / 25 年度計画目標 74,900 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ヴォツェック」	オペラ劇場	4月5日～13日	4回	4日	5,300人
「カヴァレリア・ルスティカーナ」/「道化師」(新制作)	〃	5月14日～30日	6回	6日	8,800人
「アラベッサ」	〃	5月22日～6月3日	5回	5日	6,700人
「鹿鳴館」	中劇場	6月19日～22日	4回	4日	2,700人
「パルジファル」(新制作)	オペラ劇場	10月2日～14日	5回	5日	7,700人
「ドン・ジョヴァンニ」	〃	10月16日～26日	5回	5日	7,000人
「ドン・カルロ」	〃	11月27日～12月9日	5回	5日	7,000人
「さまよえるオランダ人」	〃	1月18日～31日	5回	5日	6,700人
「こうもり」	〃	1月29日～2月8日	5回	5日	6,900人
「マノン・レスコー」(新制作)	〃	3月9日～21日	5回	5日	7,300人
「さまよえるオランダ人」(演奏会形式)	中劇場	1月16日	1回	1日	632人
高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	オペラ劇場	7月9日～15日	6回	6日	9,600人
オペラ (12 公演) 合計			56回	56日	76,332人

2 バレエ (目標入場者数 : 42,400 人) / 25 年度計画目標 35,800 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
「ファスター」(日本初演) / 「カルミナ・ブラーナ」	オペラ劇場	4月19日～27日	5回	5日	5,800人
「パゴダの王子」	〃	6月12日～15日	5回	4日	5,800人
「眠れる森の美女」(新制作)	〃	11月8日～16日	6回	6日	8,100人
「シンデレラ」	〃	12月14日～23日	7回	6日	9,400人
「ラ・バヤデーラ」	〃	2月17日～22日	4回	4日	5,000人
トリプル・ビル 「テーマとヴァリエーション」/「トゥエンティ」/「トロイ・ゲーム」(新制作)	中劇場	3月14日～22日	5回	5日	2,900人
こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	オペラ劇場	7月25日～27日	6回	3日	5,400人
バレエ (7 公演) 合計			38回	33日	42,400人

3 現代舞踊 (目標入場者数 : 4,900 人) / 25 年度計画目標 5,550 人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標入場者数
ダンス・アーカイヴ in JAPAN -未来への扉- a Door to the Future	中劇場	6月6日～8日	3回	3日	1,800人
JAPON dance project	〃	8月30日～31日	2回	2日	1,200人
DANCE to the Future～Third Steps～	小劇場	1月16日～18日	3回	3日	700人
ダンス・アーカイヴ in JAPAN 2015	中劇場	3月7日～8日	2回	2日	1,200人
現代舞踊 (4 公演) 合計			10回	10日	4,900人

4 演劇（目標入場者数：50,000人）／25年度計画目標 52,800人

公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
「マニラ瑞穂記」	小劇場	4月3日～4月20日	16回	16日	3,700人
「テンペスト」	中劇場	5月15日～6月1日	17回	16日	9,800人
「十九歳のジェイコブ」(新作)	小劇場	6月11日～6月29日	20回	17日	4,900人
「永遠の瞬間 -Time Stands Still-」(日本初演)	〃	7月8日～7月27日	20回	18日	4,900人
[JAPAN MEETS… -現代劇の系譜をひもとく-] IX 「三文オペラ」(新訳上演)	中劇場	9月10日～9月28日	18回	17日	12,200人
二人芝居 対話する力 Vol.1 「プレス・オブ・ライフ ～女の肖像～」(日本初演)	小劇場	10月8日～10月26日	18回	17日	4,200人
二人芝居 対話する力 Vol.2 「ご臨終」	〃	11月5日～11月24日	20回	18日	4,700人
二人芝居 対話する力 Vol.3 「星ノ数ホド」(日本初演)	〃	12月3日～12月21日	22回	17日	5,600人
演劇(8公演)合計			151回	136日	50,000人

[別表3] 主に青少年を対象とした公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数	目標 入場者数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「ぢいさんばあさん」	本館大劇場	6月2日～24日	46回	23日	53,100人
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 解説「歌舞伎のみかた」、「傾城反魂香」	〃	7月3日～24日	44回	22日	61,000人
文楽	12月文楽鑑賞教室	本館小劇場	12月4日～16日	24回	13日	13,100人
〃	6月文楽鑑賞教室「団子売」、解説「文楽へようこそ」、「卍三間堂棟由来」	文楽劇場	6月6日～19日	28回	14日	17,500人
能楽	6月能楽鑑賞教室 解説、狂言「仏師」、能「殺生石」	能楽堂	6月23日～27日	10回	5日	6,050人
組踊等	生徒のための組踊鑑賞教室「執心鐘入」	国立劇場 おきなわ大劇場	10月16日～17日	4回	2日	1,609人
〃	生徒のための組踊鑑賞教室「女物狂」	〃	11月27日～28日	4回	2日	1,618人
伝統芸能（7公演）合計				160回	81日	153,977人
オペラ	高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」	オペラ劇場	7月9日～15日	6回	6日	9,600人
現代舞台芸術（1公演）合計				6回	6日	9,600人

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表4] 社会人や親子を対象とした入門企画・公演に関する計画（再掲）

区分	公演名	劇場	期間	回数	日数
歌舞伎	6月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	本館大劇場	6月13日・20日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「社会人のための歌舞伎鑑賞教室」	〃	7月11日・18日	2回	2日
〃	7月歌舞伎鑑賞教室 「親子で楽しむ歌舞伎教室」	〃	7月18日～24日	13回	7日
文楽	12月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽鑑賞教室」	本館小劇場	12月5日・8日・12日・ 15日	4回	4日
〃	6月文楽鑑賞教室 「社会人のための文楽入門」	文楽劇場	6月9日・18日	2回	2日
〃	夏休み文楽特別公演（第一部 親子劇場） 「かみなり太鼓」解説「ぶんらくってなあに」「西遊記」	文楽劇場	7月19日～8月4日	17回	17日
舞踊・邦楽等	6月 第1回伝統芸能の魅力「雅楽を楽しむ」/「声明を楽しむ」	本館小劇場	6月7日	2回	1日
〃	6月 第2回伝統芸能の魅力「日本舞踊を楽しむ」/「邦楽を楽しむ」	〃	6月14日	2回	1日
大衆芸能	【特別企画公演】親子で楽しむ演芸会	演芸場	7月26日	1回	1日
能楽	【企画公演】夏休み親子で楽しむ能の会	能楽堂	8月2日	1回	1日
〃	【企画公演】夏休み親子で楽しむ狂言の会	能楽堂	8月23日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈るⅠ	能楽堂	8月21日	1回	1日
〃	【企画公演】働く貴方に贈るⅡ	能楽堂	2月27日	1回	1日
組踊等	社会人のための組踊鑑賞教室「雪払い」	国立劇場 おきなわ大劇場	6月28日	1回	1日

〃	親子のための組踊鑑賞教室「女物狂」	国立劇場 おきなわ大劇場	8月3日	1回	1日
バレエ	こどものためのバレエ劇場「しらゆき姫」	オペラ劇場	7月25日～27日	6回	3日

※ すべて別表1及び別表2の公演の中で実施するものである。

[別表5] 国、地方公共団体、芸術団体、企業等との連携協力に関する計画

区分	公演名	劇場	期間	連携協力先等
共催	沖縄県伝統芸能公演	国立劇場おきなわ 小劇場	9月～3月 (14回予定)	公益財団法人沖縄県文化 振興会
共催	国立劇場おきなわ連携事業	沖縄県内 公立文化施設	9月、11月 (予定)	北谷町、金武町、他(調整 中)
共催	地域招聘公演 樋笠バレエ団 「グラズノフ生誕150周年記念公演」(仮題)	新国立劇場 中劇場	1月11日 (1回)	樋笠バレエ団

[別表6] 全国各地の文化施設等における公演に関する計画

区分	公演名	劇場	期間(回数)	連携協力先等
共催	6月歌舞伎鑑賞教室静岡公演	裾野市民文化セン ター	6月26日 (2回)	財団法人静岡県文化財団 ／静岡県、他
〃	7月歌舞伎鑑賞教室神奈川公演	神奈川県立 青少年センター	7月26日～27日 (4回)	かながわ伝統芸能祭実行 委員会
受託	コープさっぽろ56回例会文化鑑賞会 「能・狂言名作鑑賞会」	札幌市教育文化会館	4月21日、22日 (2回)	生活協同組合コープさっ ぽろ
〃	スーパー能「世阿弥」四日市公演	四日市市文化会館	12月9日	公益財団法人四日市市文 化まちづくり財団
共催	国立劇場おきなわ県外公演	京都芸術劇場春秋座	6月15日(1回)	学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学
〃	高校生のためのオペラ鑑賞教室(関西公演) 「夕鶴」	尼崎市総合文化 センター	11月5日～6日 (2回)	尼崎市/ 公益財団法人尼崎市総合 文化センター
〃	北の大地にひびく合唱の饗宴(仮題)	函館市芸術ホール	8月 (1回)	北海道教育大学
〃	オペラ「沈黙」(演奏会形式)	長崎ブリックホール	2月15日 (1回)	長崎県
受託	演劇「十九歳のジェイコブ」	兵庫県立 芸術文化センター	7月5日～6日 (2回)	兵庫県／兵庫県立 芸術文化センター
〃	演劇「永遠の瞬間 -Time Stands Still-」	兵庫県立 芸術文化センター	8月2日 (1回)	兵庫県／兵庫県立芸術文 化センター
〃	バレエ「こどものためのバレエ劇場『しら ゆき姫』」	柏崎市文化会館 アルフォーレ	8月3日 (1回)	新潟県／柏崎市文化会館 アルフォーレ／新潟県舞 踊芸術普及育成事業実行 委員会
〃	〃	フェスティバルホー ル	8月9日 (1回)	公益財団法人朝日新聞文 化財団／大阪国際フェス ティバル協会／朝日新聞 社
〃	〃	アルカス SASEBO	8月17日 (1回)	公益財団法人佐世保地域 文化事業財団
〃	〃	サンポートホール高松	8月23日 (1回)	公益財団法人高松市文化 芸術財団／高松市
〃	〃	びわ湖ホール	9月6日 (1回)	公益財団法人びわ湖ホー ル

〃	演劇「プレス・オブ・ライフ ～女の肖像～」	兵庫県立 芸術文化センター	11月 (未定)	兵庫県／兵庫県立芸術文 化センター
〃	バレエ「シンデレラ」	上田市 交流文化芸術文化セ ンター	12月27日 (1回)	上田市交流文化芸術セン ター
〃	演劇「星ノ数ホド」	兵庫県立 芸術文化センター	12月 (未定)	兵庫県／兵庫県立 芸術文化センター

[別表7] 国際文化交流公演等に関する計画

公演等名称	実施場所	期間(回数)	連携協力先等
アジア・太平洋地域の芸能「韓国・珍島 シッキムクツ」	国立劇場おきなわ大劇場	11月15日(1回)	ユネスコ・アジア太平 洋無形文化遺産研究セ ンター
「国立能楽堂収蔵資料展 “Noh and Kyogen in Japan”」(仮称)	ニューサウスウェルズ州立美術館 (オーストラリア)	6月14日 ～9月14日	文化庁／ニューサウス ウェルズ州立美術館

[別表 8] 展示に関する計画

(目標来場者数：182,550人) / 25年度計画目標 179,150人

展示名称	会場	期間	日数	目標 来場者数
企画展示「錦絵にみる江戸から明治の芝居小屋の賑い」	伝統芸能情報館 資料展示室	4/1～5/26	56日	4,500人
企画展示「歌舞伎入門」		6/1～9/22	112日	18,100人
企画展示「未定」		10/4～1/27	111日	13,600人
企画展示「未定」		2/7～3/31	53日	7,300人
伝統芸能情報館 小計		4回	332日	43,500人
演芸資料展「伝統芸能伝承者養成研修－太神楽－」	演芸場 資料展示室	4/1～7/21	90日	12,000人
演芸資料展「未定」		8/1～11/24	90日	12,000人
演芸資料展「未定」		12/1～3/22	83日	9,500人
演芸場資料展示室 小計		3回	263日	33,500人
企画展示「国立能楽堂の新作能・新作狂言展」	能楽堂 資料展示室	4/12～5/31	43日	5,300人
入門展示「能楽入門」		6/23～8/2	35日	4,550人
収蔵資料展示		9/3～11/28	75日	9,000人
特別展示「松井文庫の能面・能装束」		1/7～3/7	52日	7,800人
能楽堂資料展示室 小計		4回	205日	26,650人
特別展示「開場30周年記念」	文楽劇場 資料展示室	4/1～5/18	48日	11,180人
常設展示「文楽入門」、企画コーナー「未定」		6/6～8/24	79日	22,850人
企画展示「未定」/同時開催「文楽入門」		9/13～11/24	73日	15,010人
常設展示「文楽入門」、企画コーナー「未定」		1/3～2/28	57日	16,960人
文楽劇場資料展示室 小計		4回	257日	66,000人
企画展「琉球舞踊」	国立劇場おきなわ 資料展示室	4/12～6/22	72日	3,096人
企画展「組踊」		7/12～9/21	72日	3,096人
企画展「沖縄の民俗芸能」		10/4～12/14	72日	3,096人
企画展「本土の民俗芸能」		1/11～3/16	65日	2,712人
国立劇場おきなわ資料展示室 小計		4回	281日	12,000人
伝統芸能分野 合計		19回		181,650人
常設展「オペラハウスの感動」	舞台美術センター 資料館	通年	272日	900人
現代演劇ポスター展		通年		
企画展「ヴェルディ&ワーグナー生誕200年記念展」		4月～11月		
企画展「未定」		11月～3月		
舞台衣裳展示	新国立劇場内	通年	-	-
公演記録写真展示		通年	-	-

※ 伝統芸能情報館資料展示室「錦絵にみる江戸から明治の芝居小屋の賑い」は、25年度から継続して開催。

※ 伝統芸能情報館資料展示室の、2/7から開催する企画展示は、27年度まで継続して開催する予定。

※ 文楽劇場資料展示室の、特別展示「開場30周年記念」は、25年度から継続して開催。

※ 舞台美術センター資料館の、企画展「ヴェルディ&ワーグナー生誕200年記念展」は、25年度から継続して開催。

※ 上記のほか、別表7に記載の通り、「国立能楽堂収蔵資料展“Noh and Kyogen in Japan”」（仮称）を開催する予定。



[別表 9] 公開講座等に関する計画

(目標参加者数：7,600人) / 25年度計画目標 7,656人

講座等名称	会場	実施時期	回数	目標 来場者数
伝統芸能サロン	伝統芸能情報館レクチャー室	隔月実施	6回	540人
公演記録鑑賞会(本館)	〃	毎月実施	12回	1,080人
能楽鑑賞講座	能楽堂大講義室	毎月実施	12回	1,800人
能楽特別講座	〃	未定	1回	100人
公演記録鑑賞会(文楽劇場)	文楽劇場小ホール	毎月実施	12回	1,500人
伝統芸能講座(文楽劇場)	〃	未定	1回	50人
公演記録鑑賞会(国立劇場おきなわ)	国立劇場おきなわ小劇場	四半期毎	4回	600人
沖縄伝統芸能公開講座(国立劇場おきなわ)	国立劇場おきなわ 会議室・交流プラザ室	四半期毎	4回	120人
伝統芸能分野 合計			52回	5,790人
現代舞台芸術入門講座	舞台美術センター資料館	未定	2回	200人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	70人
マンスリー・プロジェクト (現代舞台芸術入門講座)	新国立劇場情報センター	毎月実施	16回	1,360人
DVD 現代舞台芸術鑑賞会	〃	毎月実施	12回	180人
現代舞台芸術分野 合計			42回	1,810人
総合計			94回	7,600人

別紙1 予算（年度計画の予算）

平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	9,434
文化芸術振興費補助金	3,742
施設整備費補助金	1,931
助成事業収入	1,347
うち基金運用収入	1,330
うち寄附金収入	1
うちその他の収入	16
国立劇場事業収入	2,810
公演事業収入	2,763
うち公演事業収入	2,751
うち雑収入	12
研修事業収入	36
調査研究事業収入	11
国立劇場おきなわ事業収入	2
新国立劇場事業収入	260
受託事業収入	13
一般管理収入	22
計	19,561
支 出	
文化芸術振興費	3,742
施設整備費	1,931
助成事業費	1,387
うち人件費	161
うち物件費	1,226
国立劇場事業費	6,520
公演事業費	5,433
うち人件費	1,462
うち物件費	3,971
研修事業費	428
うち人件費	127
うち物件費	301
調査研究事業費	659
うち人件費	220
うち物件費	439
国立劇場おきなわ事業費	663

新国立劇場事業費	4,236
受託事業費	13
一般管理費	1,069
うち人件費	803
うち物件費	266
計	19,561

別紙2 収支計画

平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	金 額
費用の部	
基金助成事業費	5,129
うち人件費	161
うち物件費	4,968
うち文化芸術振興費	3,742
うち芸術文化振興基金助成費等	1,226
国立劇場公演等事業費	6,775
公演事業費	5,183
うち人件費	1,462
うち物件費	3,721
研修事業費	366
うち人件費	127
うち物件費	239
調査研究事業費	569
うち人件費	220
うち物件費	349
国立劇場おきなわ公演等事業費	644
受託事業費	13
新国立劇場公演等事業費	3,926
一般管理費	1,032
うち人件費	803
うち物件費	229
減価償却費	1,109
計	17,971
収益の部	
基金助成事業収入	5,129
うち運営費交付金収益	40
うち文化芸術振興費補助金収益	3,742
うち基金運用収入	1,330
うち寄附金収入	1
うちその他の収入	16
国立劇場公演等事業収入	6,775
公演事業収入	5,183
うち運営費交付金収益	2,420
うち雑収入	12
うち公演事業収入	2,751

研修事業収入	366
うち運営費交付金収益	330
うち雑収入	36
調査研究事業収入	569
うち運営費交付金収益	558
うち雑収入	11
国立劇場おきなわ公演等事業収入	644
うち運営費交付金収益	642
うち国立劇場おきなわ事業収入	2
受託事業収入	13
新国立劇場公演等事業収入	3,926
うち運営費交付金収益	3,666
うち新国立劇場事業収入	260
一般管理収入	1,032
うち運営費交付金収益	1,010
うち雑収入	22
資産見返運営費交付金戻入	1,109
計	17,971
純利益	0
積立金取崩額	0
総利益	0

別紙3 資金計画

平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	金 額
資金支出	33,029
業務活動による支出	25,772
投資活動による支出	2,699
翌年度への繰越金	4,558
資金収入	33,029
業務活動による収入	26,540
運営費交付金による収入	9,434
文化芸術振興費補助金による収入	3,742
公演事業による収入	3,013
公演受託事業による収入	13
基金運用による収入	1,330
その他の収入	9,008
投資活動による収入	1,931
施設整備費補助金による収入	1,931
その他の収入	0
前年度よりの繰越金	4,558

別紙4 施設・設備に関する計画

平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

（単位：百万円）

区 分	予定額	財 源
国立劇場・国立演芸場改修工事 基本計画策定等	45	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事	113	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台所作台設備更新工事	60	施設整備費補助金
国立文楽劇場小ホール音響調整卓設備更新工事	51	施設整備費補助金
新国立劇場オペラ劇場舞台機構設備基盤改修工事	83	施設整備費補助金
新国立劇場インターカム設備更新工事	376	施設整備費補助金
新国立劇場ワイヤレスマイクシステム更新工事	94	施設整備費補助金
新国立劇場ムービングライト設備更新工事	313	施設整備費補助金
国立劇場舞台機構設備改修工事	63	施設整備費補助金
国立演芸場調光卓設備整備	93	施設整備費補助金
国立文楽劇場舞台吊物機構更新工事	134	施設整備費補助金
国立文楽劇場エレベーター等改修工事	89	施設整備費補助金
新国立劇場舞台機構設備改修工事	417	施設整備費補助金